

新宿駅から都営新宿線に乗って約25分。大島駅から歩いて2分の場所にある大島六丁目団地。豊かな緑地を

はさんで、14階建を中心とした高層棟が向かい合わせに並び、特徴的な造りの団地だ。

緑地を見ながら敷地の奥に進むと現れる

のが、濃紺のフレームに縁取られた全面ガラス張りの「カフェ06(ゼロロク)」だ。木の質感を生かした店内には1人でも訪れやすいカウンターも設けられ、居心地よく温かな雰囲気。手作りのピザトーストやカレー、おにぎりなどが評判で、毎週火・木と第四土曜日の開店日には大勢の人が訪れる。

緊急事態宣言解除となった翌日の10月2日。カフェの1周年を祝うアニバーサリーイベントが行われた。秋晴れの空の下、カフェ前は開店を待つ長い行列ができるほどの大盛況。団地の太鼓サークル「若竹太鼓」の力強い演奏に始まり、団地居住者等によるマルシェ、団地に住むインド人コミュニティ

こえる』と喜んでいただいて、私たちも感激しました。年配の方はもちろん、子育て中のママの力にもなりたいですね。赤ちゃんは私たちが抱っこしているから、コーヒー飲んでひと息ついてもいいです。この1年、来客された方にとっても喜んでいただくのと同時に、私たちスタッフも生きがいをもたらしています」

ワークショップから参加している江東区社協の森本朝子さんは「悩みを抱えている方も、カフェでスタッフの方とお話することでほっとできる。身近な場所だからこそ、私たちには見えない課題にも気づいていただけます。誰もが気軽に交流できる、こういう場の重要性を改めて感じています」と語る。

常連さんが顔を見せないと、カフェスタッフが団地に常駐する生活支援アドバイザーに連絡。状況を確認するなど、ゆるやかな見守り体制も生まれているという。

URは、場所の提供と改修などを担ったが、担当の村井美樹は「あくまでも主体は自治会を中心としたボランティアスタッフの方」と話す。「我々は側面支援にすぎません。我々



団地と地域の人をつなぐ アットホームなコミュニティサロン

東京都江東区 大島六丁目団地
サロンを核とした交流促進と屋外の
新たな活用の試み 2017年●平成29年～



阿部民子 text by Tamiko Abe
illustration by Shigeyuki Sakata

ーによるスイーツ販売などに、多くの人が集まった。

緑地で開かれたのは、おもちゃコンサルタントによる子育て・交流サロン「おもちゃの広場」だ。木陰のシートには木製のおもちゃが置かれ、子ども連れでにぎわった。お孫さんと来ていた、団地在住50年というシニア女性「久しぶりににぎやかな声があったので、来てみました。こういうイベントがあるといろんな人と会えて、楽しいわね」と話してくれた。

○みんなが集える居場所作り

この「カフェ06」、店名の上に「コミュニティサロン」という名称がつく、ひと味違ったカフェだ。店舗は団地の集会所の一角をリニューアルした

の願いは、このカフェをプラットフォームにして、団地や地域の皆さんにより、様々な活動が展開されて、団地全体を活性化していただくこと。この1年の活動に本当に感謝しています」と感慨深げに語る。

○団地屋外の新たな可能性を探る

このイベントと同時に、URはニューノーマルにおけるグリーンインフラとしての多機能性を活用した、団地屋外空間の新たな利用方法に関する検証実験を行った。緑地の木陰などにテーブルを置いて、ポータブル電源やWi-Fi機器など、屋外テレワークの環境を整備。また、健康増進のためのノルディックウォーキング体験会も開催。Withコロナ、ポストコロナを見据えた団地空間の在り方を探った。テレワークをしていたご夫婦は「コロナでこもりがちになる今、すごく快適で気持ちよかった」と満足げだ。

URの黒須真希は「テレワークや休憩する方、歓談する方など、さまざまな目的で利用していただきました。団地屋外空間を多様な目的で使っていただけることが分かります。今後の検討の貴重な経験になりました」と話す。

小さなカフェから団地、そして地域へ。新たな、そして温かなコミュニティの輪が広がっている。



一人でも気軽に入れる雰囲気
「カフェ06(ゼロロク)」。